

令和7年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅰ）

小論文

農学部 亜熱帯地域農学科

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、90分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

近年、世界的な気候変動（地球温暖化）が問題となっています。その主な原因は、化石燃料の大量使用による大気中の二酸化炭素の増加といわれています。日本政府は 2050 年までに脱炭素社会を実現するという「カーボンニュートラル宣言」をしています。これに関連して森林・林業には大きな期待がかかっています。

以下の 3 つの間について、合わせて 900 字以上 1,200 字以内で解答しなさい。

- (1) 日本における森林資源とその利用の現状について説明しなさい。
- (2) なぜ、森林・林業に期待がかかっているのか、あなたの考えを述べなさい。
- (3) 脱炭素社会に向けて森林を活用してどのようなことをしていけば良いか、あなたの考えを述べなさい。

令和 7 年度入学試験問題（学校推薦型選抜 I）

小 論 文

農学部 亜熱帯地域農学科

出 題 の 意 図

農学部亜熱帯地域農学科では、(1) 国際的な視点で地域農林畜産業の振興に貢献したい人、(2) 地域生物資源の循環システムに基づく持続的農業生産に取り組みたい人、(3) 農業と地域社会との共生の仕組みを考えたい人、をアドミッション・ポリシーとしている。

問題に挙げた地球温暖化対策としての森林・林業の役割は、国際的な視野での林業振興に関する設問であり、また農業（林業を含む）と地域社会との共生の仕組みを考えるうえでも重要な視点を与えるものである。

この問題では、日本は豊富な森林資源に恵まれていること、高度経済成長期以降長らく低迷を続けてきた日本の林業が 21 世紀に入って木材生産量の増加を見るなど改善傾向にあること、森林の炭素吸収源としての役割に注目が集まっていること、石油代替の材料やエネルギー源として木材資源が見直されていること、などの社会情勢に対し、志願者がどのような基礎的知見や学習意欲を有しているかを、設問への理解力、文章の構成力や論理的表現力の観点から総合的に評価することを意図している。